はじめに

「地域における子どもの貧困対策モデル事業」は，宮城県社会福祉協議会が宮城県から受託している事業であり，令和２年度から開始され，令和４年度までの３か年で実施しました。

近年、増加しているいじめや不登校、学力不振、虐待等の背景には，貧困問題があるといわれています。このことで子どもたちが自身の能力や可能性を発揮する機会を失い、貧困が連鎖してしまうことは、社会的損失にもつながると考えられており，だからこそ地域全体で支えていく仕組み作りが重要であると考えています。

また、貧困状況にある子どもや家庭の一部は、必要な支援制度を知らない，あるいは手続きが分からない、積極的に利用したがらない等の状況もあるといわれており，いち早く貧困に気づき、必要な支援につなぐ身近な相談先が地域の中で必要になります。

そこで，どのような環境にあっても子どもたちが地域の中で，安心して安全に過ごせる居場所を増やし、子どもたちへの支援を行っていくことを目的として，県内の社会福祉法人を対象とする、モデル事業を実施することになりました。社会福祉法人が持つ福祉サービスの提供に関する専門性やノウハウ，地域の関係者とのネットワークを活かして，子ども達への支援が実施されるために，取組に前向きな社会福祉法人が，地域の資源とニーズに応じた事業をモデル的に実施しました。

昨年度に引き続き，令和４年度に事業実施した 10 法人の取組をまとめ，事例集として配布することとしました。

これらの事例が，今後地域で実施していく貧困対策事業の参考になれば幸いです。



事 例 紹 介

１．亘理町社会福祉協議会（社会福祉協議会）

２．色麻町社会福祉協議会（社会福祉協議会）

３．気仙沼市社会福祉協議会（社会福祉協議会）

４．社会福祉法人　ことぶき会（高齢者施設）

５．社会福祉法人　まりやの郷（高齢者施設）

６．社会福祉法人　ライフの学校（高齢者施設）

７．社会福祉法人　青葉福祉会（高齢者施設）

８．社会福祉法人　輝宝福祉会（保育園）

９．社会福祉法人　茱の木（こども園）

10．社会福祉法人　未来福祉会（こども園）

協働団体：民生委員児童委員協議会，町地域婦人団体連絡協議会，ボランティアネットワーク亘理，NPO 法人虹色たんぽぽ，子育てサポーター，子ども食堂ネットワーク，はらから福祉会，株式会社ダイナム

① 亘理町社会福祉協議会

地域とのつながり

月に１回，協働団体との実行委員会を開催し，こども食堂運営に向けて企画や実施，地域の情報共有を行っている。こども食堂の取組が広まり，地元企業や住民からお菓子や備蓄品，米や野菜など食材の寄付が多く集まっている。

地区：亘理町全域
企画名：こども食堂「わたりんりん」
学校の長期休暇中における子どもたちや，地域住民との多世代交流を目的にした地域食堂や子育て支援イベントとの共催事業

実行委員会での打ち合わせの様子



【親子で参加できる子育て相談部屋の「みんなの保健室」】





内容

こども食堂（食材配布・弁当配布を交互に開催）を小学校の長期休み期間を中心に６月・７月・10 月・12 月・２月・３月に開催した。町内全体で活動が広がるように各回，地区を変えて様々な場所で実施できるよう工夫をした。開催にあたり，協働団体で構成されている実行委員会で打ち合わせを行い，内容や地域の状況について情報共有を行った。

会場での食材・弁当配布だけでなく，子どもたちが楽しく遊べるゲームコーナーを設けながら，スタッフを含め世代間の交流を深めた。また，子育てに不安を抱える親への支援として，悩みや相談ができるブースを設けた。

企業や寄付で集まった食材







【ゲームを楽しむ子どもたち】





配布する弁当は，婦人会の手作り！毎回丁寧においしく作ってくれています♪

②
色麻町社会福祉協議会

地区：色麻町
企画名：ふれあい食堂
学校の長期休暇中における子どもたちや，地域住民との多世代交流を目的にした地域食堂や子育て支援イベントとの共催事業

内容

月１回，小学３年生から中学３年生を対象に午後４時から６時までふれあい食堂（こども食堂）を開催した。各回，15人を定員としており，毎回10人以上の子どもたちが参加している。
コロナ禍のため，会食は開催できずお弁当の配布を行った。

会場の中を２つのスペースに区切り，社協職員やボランティアに宿題を教えてもらったり，トランプやUNO などのカードゲームをしたり，子どもたちの居場所づくりを行っている。

学校の長期休みの期間には，大学生や高校生がボランティアとして協力し，楽しい時間を過ごせている。



子どもたち同士のつながりも増えた



【社協職員やボランティアとも仲良し♪】



【協働団体との検討会】

協働団体

町役場（保健福祉課･教育総務課），色麻小中学校，加美農業高校，商工会，民生委員，老人クラブ，地元飲食店，農業協働組合





町内飲食店
手作りのお弁当

地域とのつながり

年２回，協働団体で検討会を開催し，地域の課題や子どもたちの情報共有を行いながら「ふれあい食堂」の内容を検討している。

地元商工会と連携し，町内飲食店の手作り弁当を配布している。



地区：気仙沼市大谷地区
企画名：ほしぞら食堂とお届けびーばー
子どもの遊び場と食事支援を組み合わせた居場所づくり事業

③ 気仙沼市社会福祉協議会

協働団体

気仙沼あそびーばー，気仙沼市自立相談相機関ひありんく，ふうどばんく東北 AGAIN，匠なすびの会，民生委員，大谷小学校・中学校，気仙沼ライトハウス，宮城県本吉響高等学校，第一生命，県水産漁港部，県漁業士会北部支部，気仙沼リアス調理製菓専門学校

地域とのつながり：情報発信力がある社協とこれまで活動を継続してきた「あそびーばー」が連携し，地域の関係者（教職員・民生委員・ひありんく）と定期的な情報共有を行っている。また，地元企業との連携も図り，共催で食イベントやこども食堂開催に向けて打ち合わせをした。



手作り弁当を届ける「お届けびーばー」







プレパークでのこども食堂



内容

月１回，遊び場の敷地内で希望者全員を対象にこども食堂を開催している。また，ゆっくり親子での食事を楽しんでもらうために対象を子どもに絞らずに，親にも参加してもらった。

宅配事業「お届けびーばー」では，月３回程（9月から 12 月）弁当や食材を自宅に届け，訪問しながら個別相談を行った。

地元の企業と協力して，子どもたちの遊び場を作りながら食事の無償提供や，食育に関するイベントを開催した。

④
ことぶき会

地区：東松島市小野地区
企画名：やぎ山プロジェクト
多世代交流を目的とし，食事提供を組み合わせた居場所づくり事業

内容

施設の敷地内でやぎを飼育し，地域の中で子どもたちが気軽に遊びに来ることができる場所を作り開放している。小学校や高校が近いことから，学校帰りに子どもたちが施設に遊びにきたり，授業の一環として施設の利用者との交流会を開催した。

年５回，地域の飲食店や企業と連携し，施設の敷地内で食イベントを実施した。参加者は各回 30 人程度で，子どもから高齢者まで幅広い地域住民が参加した。イベントには，行政や社協職員，小中学校教諭，スクールソーシャルワーカーなど様々な協働団体が参加していて，参加親子が何か困り事や悩みがあった時に，気軽に相談できるような体制作りを行い，対応した。





学生が手伝いに来てくれました！

やぎとの交流を楽しむ子どもたち



地区とのつながり：地域の小中学校に通う全生徒へイベントの周知チラシの配布した。また，不登校児童が施設に遊びにくるようになったことをきっかけに学校教諭やスクールソーシャルワーカーと定期的に情報共有を行いながら必要な支援につないだ。

取組が広がり，行政や社協職員もイベントに参加してくれるようになり，地域住民だけではなく関係者との顔の見える関係性の構築につながっている。



【小学生たちが合奏を披露♪】

協働団体

東松島市福祉課，東松島市社会福祉協議会，東松島市西部包括支援センター，鳴瀬桜華小学校，宮の森小学校，鳴瀬未来中学校，スクールソーシャルワーカー，日本ウェルネス宮城高等学校，いちょうの会，民生委員，ボランティア団体，地域の飲食店（４店舗）

地区：栗原市金成地区
企画名：縁～地域のつながりの輪～
食事提供と無料譲渡会を組み合わせた
居場所づくり事業

⑤ まりやの郷

内容

地域の避難訓練にあわせて食イベントを開催し，参加者に豚汁や焼き鳥などを無償で提供した。イベントでは，施設の入居者も参加しており，子どもたちと一緒に金成音頭を踊り多世代での交流も図った。また，子育てや家庭に関する悩み相談ができるように相談スペースを設けて，施設職員が対応した。

同じ地域にある金成児童クラブへ通う子どもたちを対象に，ノートや鉛筆などの学習用品の無料譲渡会を開催した。事前に児童クラブの指導員と子どもたちの情報共有を行いながら，地域の現状把握など打ち合わせを行った。さらに支援が必要な子どもについては，こまめに指導員にヒヤリングをしてもらい，情報共有を図った。

文房具類の
無料譲渡会







協働団体

行政区長，民生委員，社会福祉協議会，児童クラブ統括センター，金成児童クラブ



地域とのつながり

地域でこどもの居場所づくりを実施している団体が少ないため，児童クラブと連携し地域の現状や子どもたちの情報の共有を行った。

事業実施に向けて，地区の行政区長や社会福祉協議会に相談し計画を立てた。今後は，定期的に打ち合わせを行い，一緒に開催することを目指していく。

【たくさんの子どもたちが参加しました】



⑥
ライフの学校



【学校運営協議会】

内容

毎週金曜日（16:00~17:30）に施設の最上階にあるライフの図書館を開放し，無料学習支援（寺子屋）を開催している。講師は，地域に住んでいる元小学校の校長先生に依頼している。

申し込みの段階から，各小学校と情報共有を定期的に行い，子どもたちの小さな変化や言動についてなど，こまめに確認している。また，保護者とは連絡ノートを用いて，子どもの様子や寺子屋の取組をコメントしながらやり取りをしている。勉強だけではなく，自己効力感や人間力の向上にもつながるような関わりを行っている。

家や学校の他に，第三の居場所として地域の中で機能していけるよう支援をしている。

協働団体

仙台版コミュニティ・スクール「おきの学園学校運営協議会」メンバー（小学校長，ＰＴＡ会長，スーパーバイザー，町内会長，民生委員，幼稚園園長，介護施設長の１５人で構成），地域住民

地区：沖野中学校区
企画名：寺子屋（無料学習支援）
学習支援を組み入れた居場所づくり事業



取組を知った地域住民の方がボランティアに！



【学年関係なく子ども同士のつながりもできた】





地域とのつながり



⇦講師は地域住民の元教職員

おきの学園学校運営協議会の会議に法人理事長が参加し，地域の様々な団体と学校（地域の子どもたち）の現状と地域の課題を共有し，協力し合って解決に向けて協議を行っている。

寺子屋以外にも日頃からこども食堂を開催したり，他世代交流を目的に地域住民との活動を行っている。

手伝いに来てくれた
ボランティアの方々



⑦ 青葉福祉会

地区：仙台市　八幡一中学区
企画名：あおばつながり隊
食事提供と無料譲渡会を組み合わせた
居場所づくり事業



協働団体：町内会長，民生委員，児童館，商店街（スーパー，病院，地元商店），宮城県内の大学生（ボランティアで参加）放課後デイサービスセンター



【イベントに来た子どもたち】

地域とのつながり

地域の商店や児童館，町内掲示板など幅広く様々な人にイベントの案内を見てもらうため，チラシ設置に協力してもらった。食イベントでは，町内の地域住民からの賛同もあり物品等の貸し出しもあった。

民生委員から直接，支援が必要な家庭への声がけをするなど積極的に顔の見える関係性の構築を目指した。

内容

不定期（晴天時）に施設の屋外で，文房具や古本，衣類など日用品や生活用品の無料譲渡会「あおぞらほん屋さん」「あおばこ」を開催した。取組が広がったことで，地域住民の協力でたくさんの物品が集まった。

10 月には，地域の児童館や放課後デイサービスセンター・学生ボランティアと連携し，食イベントを開催した。小学校の秋休みに合わせて開催したことで，たくさんの子どもたちが参加した。子どもの遊び場としても施設の敷地内を開放し，無料で食事提供を行った。また，日頃から地域の子どもたちと顔の見える関係性の構築のため，通学路のパトロールを行った。

無料譲渡会





⑧
輝宝福祉会

協働団体：
石巻市社会福祉協議会，主任児童委員，
浜松町行政区長，地区担当民生委員，
NPO 法人こども∞感ぱにー

地区／企画名

地区：石巻市　渡波地区
企画名：地域住民と子ども達との交流
～みそ玉配布を通じて～



【子どもたちが地域にみそ玉を配布】





【打ち合わせの様子】

内容

近年，問題視されている子どもたちの食育，生活リズムの乱れについては，保育園の子ども達を含めて地域の中でも，朝食を十分に食べていない子どもが多くいる。

食育の大切さを伝えることや，保護者が食事作りの際に少しでも負担軽減となることを目的に，みそ汁の素となる「みそ玉」を作成し，地域住民（地区の復興住宅・未就学児の家庭）を対象に，合わせて５０世帯に配布した。配布の際は，保育園の年長組の子どもたちが散歩をしながら順番に訪問し，折り紙で作った作品と一緒に配布を行った。訪問には関係者も同行しながら，地域での交流を深めた。

事業実施にあたり，月１回行政区長や主任児童委員，石巻市社協を中心に打ち合わせを行い，地域の現状や子どもたちの情報を共有しながら計画した。



【行政区長や民生委員を中心に協働団体の方も一緒に参加しました】

地域とのつながり

イベントを開催するにあたり，月１回事業の関係者（石巻市社協，主任児童委員，行政区長など）との打ち合わせを行った。また，地域の未就学児の子を持つ保護者に対しても届くように，「プレパークわたのは」に協力してもらい，みそ玉を手に取り交流する機会を設けた。

子どもたち手作りの
折り紙の作品



内容

こども園内を使用し，月１回こども食堂を実施した。ボランティアとして，地域でこども食堂に興味のある住民の方や管理栄養士を定年退職された方，木もれ陽キッズクラブの方が集まり，こども食堂実施に向けて地域の現状など情報共有しながら打ち合わせを行った。コロナ禍のため，会食ではなくボランティアの手作り弁当を配布した。

こども園での開催になるので，子どもたちが自由に遊べるスペースや道具などがそろっていて，参加した子どもたちの遊び場となってる。また，悩みや困り事があった時に親と話ができるように相談スペースを設けて，親子の支援ができるように環境整備を行った。

⑨ 茱の木





【子どもたちが書いたイラスト付き弁当】

ボランティア
手作りの弁当



地区：登米市中田町
企画名：いしのもり食堂
児童館と連携した子ども食堂と居場所づくり事業

協働団体

ボランティア（地域住民）
木もれ陽キッズクラブ



【こども園　森のくまさん】

地域とのつながり

地域の中に，こども食堂や子どもの居場所づくりを行っている団体がほとんどない状態だった。まずは，地域の中でこども食堂に興味のある方に声をかけ，管理栄養士だった方や子ども関係の仕事に携わり，定年された方などが集まった。さらに木もれ陽キッズクラブと連携し，実施に向けて地域の子どもたちの情報交換や打ち合わせを行った。

⑩

未来福祉会

地区：北仙台（通町・荒巻・上杉地区）
八乙女（黒松・八乙女・南光台地区）
企画名：ミッキーこども食堂
児童館と連携した子ども食堂と居場所づくり事業

栄養士手作りの
美味しいお弁当





協働団体

開催地区の児童館，小学校，地域の主任児童委員

地域とのつながり

地域の児童館がこども食堂の申し込みチラシの配布を行っている。日頃から子どもたちや家庭の様子を知っているからこそ，児童館職員から直接親子へ声がけを行うこともある。小学校では，チラシの掲示をしている。ホームページでの周知もしており，これを見た人からの電話での問い合わせも増えている。





配布の様子

内容

月１回，北仙台園と八乙女園それぞれのこども園で，園の栄養士が作った弁当（各園 30 食分/事前申し込み制）を配布している。共働き世帯が多い地区の特徴もふまえて，弁当の受け取り時間は，17 時から 19 時とし各園，年６回実施した。必ず保護者と一緒に受け取ることにしていて，保育士が保護者に声がけを行い，話をしたり悩み相談が聞けるようにして顔の見える関係性の構築を図った。

対象者を小学生にしているが，家族で一緒に食事をしてほしいという思いから，未就学児から高校生までの兄弟がいる場合は兄弟分も申し込み可能としている。

【兄弟の分ももらえるので
夕食をみんなで楽しめる♪】





宮城県社会福祉協議会
みやぎボランティア総合センター
TEL：022-266-3951
FAX：022-266-3953
MAIL: myvc@miyagi-sfk.net